神戸大学医学部附属病院

脳神経内科

指導担当医（役職）

千原　典夫（特命講師）

実習概要

概要

脳神経内科の主治医団の一員として、チームが担当する患者さんの診察、検査、治療に関わります。投薬は行いませんが、新入患者の問診、診察、検査等を初期研修医と一緒になって行い、基本的臨床手技を学びます。診察においては一般内科学的所見の診察に加え、神経学的所見をとって記録することで責任病巣の確認に役立てます。担当症例の病歴・所見をまとめ、チャートカンファレンスでプレゼンテーションを行い、治療方針についてディスカッションする力を養います。

医療面接

新入院患者を担当し、病歴を聴取します。入院に至った経過を、症状の出現する前からのエピソードも含め深く掘り下げ、経時的な現病歴を構築すべく聞き取ります。神経疾患は正確な病歴聴取ができればかなりの疾患が診断可能とされています。第3者の情報や、過去の文書も参考にしながら、患者さんが入院するまでの環境および病態の変化をできるだけ正確な情報を組み合わせて綴る訓練をします。初回のみならず、担当症例に関しては何度お話を聞き直しても何度病歴を書き直してもかまいません。

身体診察

一般内科学的な診察以外に、詳細な神経学的診察所見を指導医と一緒にとり、翌日からは症状所見に変化がないか、一人で所見をとっていきます。疾患によって、脳神経領域の所見、運動系の所見、協調運動の所見、感覚障害の所見、不随意運動の所見など、注目するべき所見が異なるので、指導医の所見と比べながら、疾患の推移を反映しやすい所見をとるようにします。

自分の担当していない患者さんでも特徴的な神経学的異常所見が診られる患者さんがいれば、特別にお願いして所見をとらせてもらってもかまいません（眼振やバビンスキー徴候など）。一度診たら忘れない所見などはできるだけ多く触れられるようにします。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載を行います。指導医が記載内容をチェックし指導します。

症例プレゼンテーション

2週目から、火曜日のチャートカンファレンスで担当した症例のプレゼンテーションをします。

担当が当たった場合、金曜日の教育回診前のプレゼンテーションも行います。

その他（特色など）

様々な検査オーダーを研修医と共に行い、検査の意味や実際の所見のみかたを学ぶこともできます。

採血（実施）、髄液検査（立ち会い）、筋電図検査（立ち会い）など手技も体験します。

学生へのメッセージ

神経疾患を抱えた患者さんを担当することで、専門診療にふれるだけでなく、様々な疾患を合併した患者さんを俯瞰的に診る力を養うことができます。また、根治を目指す医療だけでなく、様々な問題が組み合わさっている個々の患者さんのニーズをとらえ、改善させてあげられるところは何か考えるという、臨床内科の基本的な考え方が自然と身につきます。神経に興味がない人、苦手意識がある人ほど、実習で神経疾患に触れてみることをおすすめします。